



【m-HANDS 2020 第2・3回の報告】

中国ブロックでの指導医養成の報告

出雲家庭医療学センター大曲診療所 藤原和成

岡山家庭医療センター奈義ファミリークリニック 松下明

【m-HANDS-FDF】

(modified - Home and Away Nine DayS - Faculty Development Fellowship)

過去5年間にわたって継続してきた中国ブロックの指導医養成コースです。今年は新型コロナウイルス感染症の流行により、オンライン開催となりました。これまで全5回であったコースを、1回の開催時間短縮に伴い、全8回のコースとして再編し、実施しています。

今年度も、JPCA-MLなどで募集して中国地方の指導医6名が全8回のコースに参加中です。6名はそれぞれ3人ずつのチームを作り、様々な課題に取り組んでもらっています。

以下に第1回に参加してくれた指導医からの報告の一部を掲載します。

2021年度も引き続き開催を予定しています、ご興味のある方はぜひご連絡下さい。

〈目的〉

中国ブロックの指導医の養成とプログラム運営の質向上を通して、プライマリ・ケアの普及と発展をめざす

〈対象〉

- ・中国ブロックに所属しており、家庭医療後期研修を修了した医師
- ・中国ブロックの家庭医療後期研修に関わる指導医

〈アウトカム〉

Core Competence : Adult Educator (成人学習支援者)

学習者と向き合い、その学びに気を配り、学びの場をサポートできる

教育者の役割と限界を知り、学習者と協同的に学び、生涯学習者を育てる姿勢で関わる

学習者の学びを促進するための理論と技術を適切に用いることができる 参加者と講師による学習共同体の形成を勧め、ブロック内の指導医ネットワークを作る

机上のプログラム作成だけでなく、各現場での仕組みづくりや教育チーム形成ができる

総合診療の魅力やプログラムの魅力を効果的に伝えられる発信力や求心力を発揮できる

ツールの活用や工夫などで独創的で質の高い遠隔教育ができる

第2回 オンライン開催 2020年9月26日

【ビデオフィードバック】

受講者が現場で実際にフィードバックを行っているシーンの録画を見ながら、更に良いフィードバックにつなげていくための議論をしました。視線の向け方や間の取り方など非言語的コミュニケーションを客観的に見ることができ、自分がフィードバックを受ける側な

らどう感じるかを想像しながら議論をすることができました。本年度 mHANDS 第 1 回目で学習した 5 micro skills を早速活用してフィードバックをしている受講者もいました。知識や臨床推論など背景が異なる他職種へのフィードバックの事例では、教育されたことが現場でどう生きるかという意識の違いで、学習効果も変わってくるのではないかという意見が出され、アウトカム設定の重要性を意識させられました。(長沼恵滋)

【OBE と効果的な教育】

山口大学医学部総合診療部、生協小野田診療所の玉野井徹彦先生の講師で上記テーマの学習が行われた。milestone や EPA といった達成項目についてレクチャーで学んだあと、学習者各人が抱えてきた教育活動の課題を振り返りながら、どういったアウトカムを設定するのがいいのかグループに別れて話し合った。m-HANDS ではカリキュラム開発を行っていくトレーニングも行っていくが、アウトカムを設定することは教育のビジョンを設定することであり、これを考えながらカリキュラムを開発していく重要性を学んだ。(李瑛)

【カリキュラム開発】

このセッションでは、OBE について学んだ知識を生かし、実際にカリキュラム作成を行いました。各フェローが、医学部高学年の地域医療実習、初期研修医の診療所研修、看護師への輸液教育などを題材に、グループディスカッションしながら、目標設定、教育方略、評価方法、導入方法を考えました。一般目標には知識・技術領域だけでなく、自己概念・特性・動悸といった氷山の水面下の部分も含めたものにする、一般目標にそった個別目標を具体的に動詞を意識しながら立てること、また評価は、その目標との整合性、妥当性があるものでないといけないこと、カリキュラム自体の評価方法も検討しておかないといけないこと、を学びました。学習者のニーズとのすり合わせを意識し、ARCSモデルをイメージして、学習者のモチベーションを保てるようなカリキュラムが作成できるようになりたいと思いました。(上春美奈)

【チームビルディング】

事前課題として、これまでに自分が関わったチームについての具体例やうまくいったこと・うまくいかなかったことなどを Google スプレッドシートにまとめており、これをチーム内でそれぞれ共有して Q. チームに必要な事とは何か? という議論をしました。チーム内での共有時間が短く、もっとお互いのチーム事例をじっくりと聞いて、話を深めてみたかったな、というのが個人的な感想です。タックマンモデルなどを含むチームビルディングの一般論が聴けてよかったです。今後の職場などでのチーム運営に活かせればと思いました。(紙本美奈子)

第3回 オンライン開催 2020年10月24日

【模擬ティーチング】

1 チーム 3 名ずつで、3 チームがそれぞれ事前に作成した教育実施計画書を元に、模擬学習者である医学部生 6 名に対し模擬ティーチング (25 分) を行い、フィードバックを受けた。実施日までに各チームごとに、教育テーマの決定、目標設定、評価方法、方略の選定などの事前準備を行った。

「問題」領域では、虫垂炎の診断ができることを目標に双方向性レクチャーが行われ、事後課題提出をもって評価とした。「技術」領域では、医療面接技法として解釈モデルの聴取を目的としたロールプレイを全員行い、参加者からフィードバックを受けた。「価値」領域では、誤嚥性肺炎を繰り返す脳梗塞患者の症例が提示され、参加者は多職種に割り当てられ模擬カンファレンスを開催しそれぞれの意見を述べた。意見が異なる中でも各職種の立場や意見を尊重し、対話や理解が進められることを目的とした。(菊地由花)

【チームビルディング】

m-Hands グループのチームビルディング形成について振り返りを行いました。教育をやるメンバーであることが一致しており、多忙さの差があるにせよ、チーム形成は上手くいったのではないかと振り返ることができました。その一方で、日常の業務に目を向けると、モチベーションや知識の差、背景の違うメンバーをチームを組まなければいけないことも多く、チーム形成への苦労も共有できました。今後自分の働いている場で学んだ知識を生かしていこうと思います。(田中道徳)

【ファシリテーション】

これまでは「グループ討論がうまく進むような舵取り役かな？」くらいの認識だったが、今回のレクチャーで共有－発散－収束－決定の4つのプロセスがあり、それぞれに違ったスキルが求められることを学んだ。

実際に4プロセスを意識しながらグループ討論を行ってみたが、3人グループだったこともあるのか、全員が隠れファシリテーターのような役割となり、発散と収束が同時に起きたように感じた。

また今年度は初のオンライン開催であったが、Google Jamboardがブレインストーミングに有用なツールとして活用できたと思う。(長沼恵滋)

第4回 オンライン開催 2020年11月28日

【ビデオレビュー】

2回目となる教育現場のビデオレビューだが、今回は広島大学病院 総合内科・総合診療科の菊池由花先生と岡山家庭医療センター・湯郷ファミリークリニックの上春美奈先生のケースを扱った。事前に録画をしている教育風景を見ながら、良かった点や改善点を受講生・講師で話し合った。

菊池先生のケースでは、5micro skillsを用いながら初期研修医に対して外来指導する様子を見ながら、思考プロセスの言語化ができていない点などが評価としてあがった。上春先生のケースでは、ポートフォリオを意識した専攻医への外来の振り返りの様子を見ながら、学習者のペースに合わせた振り返りができていない点などが評価としてあがった。ビデオで見ながら振り返りを行うことは、受講生にとって様々な気づきが得られることであり、こうした振り返りを繰り返しながらより良い教育方法を今後も実践していきたい。(李瑛)

【教育困難事例 Difficult Teaching Encounter】

「この学習者、教えるのが難しいなあ」と感じる“困難な学習者”に遭遇した時、まず「それは本当か?」「それは重要か?」と自問し、なるべく複数の人から情報を集める。その上で、学習者自身の問題だけでなく「環境、カリキュラム、システムの問題」「指導医の問題」「教育スタイル、学習スタイルなど組み合わせの問題」がないか振り返ることが大事である。今回、各チームから出た「やる気がないように見える子育て中の女性研修医」「地域医療のポートフォリオに攻撃的な文句を記載した医学生」の2事例についてディスカッションをした。「困ったように見える学習者は実はヘルプが必要な学習者」という視点も必要だと学んだ。(上春美奈)

【リーダーシップ】

事前図書、事前動画を元に、リーダーシップや心理的安全性について印象に残っていることを記述する事前課題を提出し、当日までに全員分の事前課題の記述を眺めてGoogleスライドに感想を記述した。当日は、スモールグループで事前課題の内容について話し合った。また、後半は各チームで、フェローひとりひとりのリーダーシップを表す絵と言葉を創作し共有して、今後の模擬ティーチングなどに向けたリーダーシップの在り方について話し合った。これからのリーダーシップは、「どんな人でも発揮することができ、学習可能なもの、職場やチームの目標を達成するために他のメンバーに及ぼす影響力」であるということを通識として学ぶことができた。(紙本美奈子)

【交渉術】

6000 円を 2 チームでどのように分配するかについて、原則立脚型交渉の一連の流れ（分析→立案→協議）を経験した。課題図書知識をベースとし、各チームで事前に作成した交渉前のチェックリストを念頭に置いて、相手チームの目的や立場、感情、規範意識、利害を引き出し、論点を整理して各種バイアスを意識しながら、自分のチームのミッションの実現を目指した。ミッションはBATNA、ZOPA、留保価値などを意識して臨んだ。

実際にやってみると、互いの情報をどこまでどのタイミングで提供していいのか迷ったり、交渉にあたるメンバーの役割分担なども決めきれていない部分があるなど難しい場面が多かった。相手の出方を様々な切り口で想定すること、win-win の関係を考えることなどができたと感じた。(菊地由花)

〈今後の予定〉

第 5 回 オンライン開催 12 月 26 日 (土)

第 6 回 オンライン開催 1 月 23 日 (土)

第 7 回 オンライン開催 2 月 27 日 (土)



【「医学生・初期研修医のための外来診療はじめの一步」セミナーを開催しました！】

2020 年度の初期研修医から一般外来における研修が必須となりました。しかし、県内にはこれまで一般外来研修の教育環境は少なく、研修医自身も何を学ばよいかわからずにいる。そのニーズに応えるべく、今回は外来診療に強みをもつ私たち総合診療医が、医学生・研修医を対象とした外来診療の楽しみ方・学び方を伝える場を用意しました。当日は完全オンライン開催となり、これは山口県支部の中でも初めての試みとなりました。

企画概要

【日時】2020 年 11 月 28 日 14 時-18 時

【場所】Zoom®開催

【内容】

14:00-14:30 : イントロダクション

講師：原田昌範 (山口県支部長/山口県立総合医療センター へき地医療支援部)

14:30-15:30 : いつもの診療にちょっとプラス！ヘルスマネジメント

講師：片山寛之 (岩国市立美和病院/家庭医療専門医・指導医)

15:40-16:40 : ”型なし”にならない！外来で役立つ医療面接・コミュニケーション技法！

講師：篠原孝宏（山口県立総合医療センター/長州総合診療プログラム）

16:50-17:50 : 知って得する一般外来のコモンディーズ

講師：下川純希（宇部興産中央病院 総合診療科/美祢市立病院 総合診療科）

当日は14名の医学生・初期研修医が参加しました。若手主体で取り組んだセミナーで、Zoomを使ったオンラインセミナーは初めての試みでしたが、事後アンケートで9割はレクチャーに大変満足し、セミナー自体も大きなトラブルもなくスムーズに運営できました。一方、講師の関連施設に参加者が偏ってしまい、今後県内の研修病院にこういった外来診療の教育を広げていくためには、事前の広報が課題となりました。

山口県支部の諸先生方のあたたかい励ましのおかげで、本セミナーを無事開催することができました。今後も、若手発信の企画を定期的に行い、縦のつながりができる場を用意できればと考えております。



企画代表

下川純希（山口県支部若手医師代表/宇部興産中央病院）

片山寛之（岩国市立美和病院）

篠原孝宏（山口県立総合医療センター/長州総合診療プログラム 専攻医）

【プライマリ・ケア看護学ワークショップ<応用編> WEB 開催と募集のお知らせ】

日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア看護師の認定が2019年度より始動いたしました。本研修を全日程ご受講頂くと、認定に必要な単位をご取得頂けます。認定取得をご希望の方はぜひ受講ください。

本研修は「プライマリ・ケア看護学（基礎編）」（南山堂）のテキストをもとに、学習内容を深めますが、学会認定プライマリ・ケア看護師の認定審査の申請には《基礎編》《応用編》問わず、いずれのコースでも、申請可能となっております。9時間の研修を受講いただいた方に受講証明書を発行いたします。あらかじめご了承ください。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響を考慮し、この度はWEB 開催とさせていただきます。

◆以下①～③のテーマについて1 単位 (3時間) ずつ、計3日間を使って深めます◆

《応用》 ①小児ケア ②慢性疾患管理 (COPD) ③社会的健康格差への取り組み

開催概要

■ 日時・テーマ:

① 2021年2月13日 (土)

13:30～13:50 ログインテスト・オリエンテーション

14:00～17:00 テーマ:小児ケア トリアージ 発達段階、小児に起こりやすい症状、疾患講義と事例展開 (演習)

講 師:北村由起子 (本学会委員, 東京都立小児総合医療センター小児看護専門看護師)

② 2021年2月27日 (土)

14:00～17:00 テーマ:慢性疾患管理 (COPD) フィジカルアセスメント、呼吸リハビリテーション 呼吸器疾患の緩和ケア 講義と事例展開 (演習)

講 師:山尾美希 (あさかぜ診療所 慢性疾患看護専門看護師 呼吸療法認定士)

③ 2021年3月13日 (土)

14:00～17:00 テーマ:社会的健康格差への取り組み～地域包括ケアシステムをふまえて～講義と事例展開 (演習)

講 師:北西史直 (本学会副委員長, トータルファミリーケア北西医院 院長)

17:00～18:00 オンライン懇親会 (自由参加)

■ 開催方法:WEB 開催

■ 募集人数:100 名 (先着順)

■ 対象:保健師、助産師、看護師、准看護師

■ 参加費:【会員】10,000 円 【非会員】12,000 円

■ 服装:白衣・スーツの着用は不要です

■ 準備物:教科書 プライマリ・ケア看護学 南山堂 聴診器

■ 申込期間:2020 年12 月1 日 (火) ～2021 年2 月2 日 (火) 午後5 時

申込フォームよりお申込みください。定員に達し次第、締め切りとさせていただきます。万が一受付確認メールが届かない場合は下記までご連絡ください。

■入金期間:2020 年12 月1 日 (火) ~2021 年2 月2 日 (火)

※受付確認メールで参加費振込先口座をご案内致します。必ず入金期間内にご入金頂きますよう、お願い申し上げます。入金後にキャンセルされた場合の払い戻しは致しませんのでご了承ください。(キャンセルされる場合は事務局にメールでご連絡下さい)

【お問い合わせ先】

日本プライマリ・ケア連合学会 担当係

メール:jpca@a-youme.jp TEL:06-6449-7760 FAX:06-6441-2055

■受講にあたり

1. オンライン授業は、Zoom というアプリを利用する予定です。受講生は、自宅等でオンライン授業を受講できる準備を早めにお願ひします。パソコン、スマートフォンやタブレットに、事前にZoom のアプリをダウンロードしておいてください。
2. スマートフォンやタブレットの多くはカメラ、マイク付きのものがほとんどですが、ノートパソコンの場合はカメラやマイク機能がない場合があります。その場合は、お手数ですが、別途それらの機器を購入し、接続していただく必要が生じます。

3. 無線LAN 導入などのインターネット接続環境をご整備ください。有線LAN の方が通信の安定性は高いです。

ZOOM の1時間当たりの通信量は 200~300MB と言われています。LAN 環境ではなく、スマホなどのパケット通信でオンライン授業を受ける場合には、携帯キャリア(ドコモなどの通信会社)との毎月のパケット上限を確認し、安定して受講できる準備をしてください。

4. ZOOM アプリでの授業映像の録画、撮影をし、SNS 上にアップするなどの行為は著作権や肖像権上の問題が生じ、罰せられることがありますので、禁止します。

一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会

プライマリ・ケア看護学 <応用編> WEB ワークショップ

<開催日程>

2月13日(土)、2月27日(土)、3月13日(土)

※計3日間での研修になります

定員：100名
(先着順)

対象：看護師
准看護師
保健師
助産師



	日程	時間	テーマ	講師
第1回	2/13 (土)	13:30 ~13:50	ログインテスト オリエンテーション	
		14:00 ~17:00	小児ケア トリアージ 発達段階 小児に起こりやすい症状、疾患	北村由起子 東京都立小児総合医療センター 小児看護専門看護師
第2回	2/27 (土)	14:00 ~17:00	慢性疾患管理(COPD) フィジカルアセスメント 呼吸リハビリテーション 呼吸器疾患の緩和ケア	山尾美希 あさかぜ診療所 慢性疾患看護専門看護師 呼吸療法認定士
第3回	3/13 (土)	14:00 ~17:00	社会的健康格差への取り組み ~地域包括ケアシステムを ふまえて~	北西史直 トータルファミリーケア北西医院 院長
		17:00 ~18:00	オンライン懇親会 (自由参加)	

当日はzoomで講義・演習(グループワーク)を行います
ご受講に際しましては、左記QRコード
https://www.primary-care.or.jp/seminar_n/index.htmlから詳細を
ご確認ください、インターネット接続環境をご整備の上、お申し込みください

申込期間 2020年12月1日(火) ~ 2021年2月2日(火)

お問い合わせ先：日本プライマリ・ケア連合学会 担当係
TEL：06-6449-7760 FAX：06-6441-2055 MAIL：jpca@a-youme.jp